



「人類への奉仕者としての使命を果たすキリストの教会」

ベルゴリオ司教・教皇フランシスコによる預言的な解放の姿勢

難民移住移動者委員会担当司教 山野内 倫昭

タリタクムの 10 年間の歩みの振り返り

世界に広がる人身取引と闘うために設立されたタリタクムは今年で活動 10 年目を迎えました。2015 年に教皇フランシスコはこの集いの意義をさらに高めるため、聖ジョゼッピーナ・バキータ (Giuseppina BAKHITA 1869-1947) の記念日である 2 月 8 日を「世界人身取引に反買いする祈りと啓発の日」に決めました。聖霊に導かれてスタートしたこの共同運動の振り返りと、次の 5 年間の優先課題を決めるため、女子修道会の総長たち (UISG) はローマに集まり (9 月 21 日～27 日) 教皇に謁見しました。教皇フランシスコは総長たちに対し「これは間違いなく教会の中で最も預言的な奉仕です。まだ参加していない男女修道会に呼びかけるように、」と強調されました。

教皇フランシスコの訪日 (11 月 23～26 日) にあたり、教皇フランシスコ/ベルゴリオ司教がどのような牧者の姿勢で難民や移住者たちそして人身取引に巻き込まれた人たちと関わったか、私が見たものを分かち合いたいと思います。

初めて「ホルヘ・ベルゴリオ」という名前を聞いたとき

私はサレジオ会のアルゼンチンとパラグアイの修練長として、5 年間、アルゼンチンの郊外に住んでいました (1992～1997)。8 月のある朝、ブエノスアイレス新聞を開いたとき、私の目は黒いスータンを着た司教の写真に釘付けになりました。写真の見出しには「ベルゴリオ司教、昨夕聖ガエタノ (San Cayetano) 教会に來た」と書かれ、記事には「移住者・労働者たちは今年もまた 8 月 6 日の晩に聖ガエタノ教会に集い、一年間働いたことを感謝し、健康と仕事が続くよう願った」と書かれていました。ベルゴリオ司教はブエノスアイレスの司教として一晩中そこに並んでいる人々と話し合い、告解を聴き、翌朝のミサを捧げて地下鉄で司教館に戻ったのです。

さらに驚いたベルゴリオ司教の行動

ある夜、テレビ・ニュースにふと目をやると、ブエノスアイレスの人々から恐れられているコンスティツション (Constitucion) 広場で、貧しい服を着た大勢の人々に囲まれて、木箱を重ねただけの祭壇でミサを捧げている司教の姿が映っていました。私は本当に驚きました。この広場は、麻薬売買、売春などが行われる、近寄ってはいけない汚れた場所でしたから。私が日本語版「ローマ法王になる日まで」の映画を見た時、その広場は映っていませんでしたが、代わりにブエノスアイレスの北、港近くの大きなバスターミナルの前にある最も貧しい人々が住む団地が描かれていました。市の新しい開発計画で、そこに住む人々が追い出されようとしている時にベルゴリオ補佐司教が登場し、市長や警察官たちを説得し、工事をストップさせた姿はとても印象的でした。教会はこのような困っている人々から絶対に離れてはいけません。このような団地はブラジルではファヴェーラ (Favela)、アルゼンチンではヴィジャー・デ・エメルヘンシア (Villa de emergencia) と呼ばれていました。今でも、司祭であっても怖い、警察さえ入らない世界です。教皇フランシスコとなってからワールドユースデーのためブラジルのリオに行かれたときにも、最も貧しい「ヴァルギーニャのファヴェーラ」の人たちの家を訪問し、お茶を共にされました (2013/7/25)。このように、教皇フランシスコには善き牧者、善きサマリア人の姿勢と行動が溢れています。教皇は全教会に向かって、なかなか奉獻者たちに向かって「パレシア (Parresia) ※」を持って、物として売買されている兄弟姉妹たちの解放のために、力を一つに合わせて闘いましょう」と強く呼びかけておられるのです。

※Parresia: 「命を掛けて行う・行動する」、命が危なくても命を掛けて (勇気を持って) 前進する、前に向かって進む姿勢、行動

タリタクムセミナー in 札幌報告

さる10月5日、タリタクムセミナー「人身取引と日本の教会の取り組み～ベトナム人技能実習生の実態と支援」を、札幌教区カトリックセンターで開催しました。当日は、札幌からの参加者を中心におよそ70名が集いました。今回のセミナーは札幌教区で初開催ということもあり、人身取引と教会の取り組みやタリタクムの活動を知っていただくこと、そして札幌教区内でも急増するベトナム人技能実習生の支援のための情報提供が主な目的でした。

セミナーの冒頭、J-CaRM 担当司教の山野内司教から、人身取引の歴史と世界のタリタクム運動について、またタリタクム日本についての紹介がありました。奴隷制度や人身取引の歴史の中で、カトリック教会もそれに加担してきた事実があります。15世紀以降のスペインやポルトガルによる中南米の植民地支配の時代、アフリカから多くの黒人が奴隷労働を強いられた歴史があります。解放の神学が生まれるなかで、そのような歴史の振り返りと、人身取引のテーマの重要性が認識されるようになりました。そして10年前、800ほどの女子修道会がかかわる国際総長会議

(UISG) のプログラムの一つとして、国際タリタクムの運動がはじまりました。人身取引の撲滅のための啓発と被害者支援のネットワーク活動に取り組んでいます。また日本では、世界のタリタクムの運動に連動して、2年前にタリタクム日本が発足しました。J-CaRMのなかに位置づけられていますが、司教協議会、女子修道会、男子修道会の三者の連携によるプロジェクトとして活動しています。



カトリック教会の人身取引問題への取り組み

次に、タリタクムの山岸委員によるカトリック教会の難民移住移動者、および人身取引問題への取り組みについてのお話がありました。現在、教皇フランシスコの呼びかけのもとで、難民・移住者に関する世界的なキャンペーン「Share the Journey : 排除 ZERO キャンペーン」が展開されています。世界中で紛争や迫害などから逃れたり、貧困や経済的な理由により移動する人々が急増する状況のなかで、すべての人が排除されず、一人ひとりのかけがえのない尊厳と権利が大切にされる教会と社会をめざし、移住者・難民を「受け入れる」「保護する」「促進する」「共生する」取り組みをすすめるよう、呼びかけています。さらに教皇フランシスコは2019年に発表した「人身取引に関する司牧指針(POHT)」(教皇庁人間開発に関する部署の移住者難民セクション発行)において、人身取引が、現在社会の生々しい傷であり、その撲滅と被害者救済のために、すべてのキリスト者が自らの問題として受けとめ、取り組むことが必要であると呼びかけられました。このような呼びかけを受けて「タリタクム日本」では、人身取引に関する啓発・情報発信、被害者支援と、人身取引にかかわる国内外のネットワークを柱として活動しています。人身取引被害者支援では、被害者へのシェルターの提供、緊急一時援助金による支援などを行ってきました。また「現代の奴隷制度」「人身取引の温床」など、国際社会から批判にさらされている技能実習制度そのものの問題や、制度の改善や廃止を求めるカトリック教会の取り組みについても紹介がありました。さらに現実に増え続ける技能実習生の問題に対応するために小教区でできることとして、共同体に受け入れること、日本語教室などの必要な支援や、本当に困った時の相談対応についても情報提供がありました。

ベトナム人技能実習生の実態と支援

ベトナムから難民として来日し、現在はさいたま教区のオープンハウスや川口教会でベトナム人への司牧と支援にたずさわる聖ビンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会のシスターレティランから、さいたま教区におけるベトナム人のおかれた状況と司牧活動の紹介がありました。川口教会では、10年前には定住ベトナム人

の支援が中心でしたが、5年前から技能実習生と留学生が急増し、豊かな教会共同体ができつつあるのと同時に、多くの問題が寄せられるようになりました。ベトナム人技能実習生の多くは、来日する前の期待とはまったく異なる、過重労働や低賃金、暴力被害などの現実苦しめられています。ベトナムからの実習生は現在100万～150万円の借金を抱え、働いても借金を返すこともできないと思い、実習先から逃げ出した結果、非正規滞在になってしまい、犯罪に巻き込まれたり、売春を強要されるなどのケース、また入管に収容・強制送還されるなど、権利の回復ができないまま泣き寝入りを強いられるケースも多いのです。さらに最近では、過労死が疑われる死亡ケースも増えています。

このような問題に対応するため、シスターランが専門家らの協力を得て川口教会を拠点に行っている支援



70名ほどの人がベトナム人実習生の実情に耳を傾けました

の取り組みとして、弁護士や行政書士と協力して生活や法律に関する相談会や、医師の協力の下、妊娠や出産問題に対応するための学習会や健康相談会を開催していることなどが紹介されました。最近では、妊娠した女性と子どもの帰国後の出産や自立生活の支援のため、ベトナムの修道院との連携も始まりました。また教会として、ベトナム人司祭の協力をえて霊的な相談会も開催し、心の傷を癒すための活動、青年の信仰教育にも力を入れています。最後にシスターランから、このような深刻な問題に対応するために日本各地の相談窓口の情報提供をすることと同時に、ベトナム本国で来日前に日本の実態を伝える啓発活動が重要だとの指摘がありました。

セミナーの後に、山野内司教の司式による派遣ミサがありました。またその後、集まった札幌教区の方々と

の懇親の時間を持ち、タリタクムの札幌での1日目は締めくくりとなりました。



札幌教区のベトナム人司牧と支援の充実のために

翌日は、札幌教区の主催によるベトナム人のための集いとミサがありました。午前中からゆるしの秘跡を待っている人たち向けに、シスターランの講話があり、集まった若いベトナムの技能実習生や留学生たちが食い入るように真剣に話を聞いている姿が印象的でした。



ベトナム料理の持ち寄りのお昼の時間もあり、午後のミサには70名ほどの札幌在住のベトナム人たちが集いました。札幌教区にベトナム人司祭が不在な中、ミサのために東京から札幌に来て司式をされた神言会のフック神父様、そしてシスターランに、札幌のベトナムコミュニティのメンバーから記念品の贈呈と感謝が伝えられました。タリタクム日本でも札幌教区でのベトナム人司牧と支援の課題を今後も共有していくとともに、ベトナム人の若者たちが新たに加わった札幌教区で、さらに豊かな教会共同体が形成されていくことを願います。

タリタクム日本運営委員 山岸素子

タリタクム設立十周年記念総会 報告

国際タリタクムが設立されて今年で10年目になり、9月に国際会議がローマで開催されました。「タリタクム」とはイエスが当時日常語として話していたアラマイ語で、「少女よ、起きなさい」という意味。そのエピソードはマルコ福音書の5章にあります。「若い娘が死にそうです。どうかおいでになって手を置いてやってください。そうすれば娘は助かり、生きるでしょう」と願ったユダヤの会堂長ヤイロの願いに応じて出かけていきますが、途中で「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすには及ばないでしょう」という伝言が届きました。しかし、イエスは「恐れることはない。ただ信じなさい」と言って、少女のいる所に行き、少女の手を取って、「タリタクム、少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」と言われると、少女はすぐに起き上った歩きだしました。

イエスのなされたように人のいのちを死の束縛から解放する仕事に特化するネットワークが、国際タリタクムとして10年前に発足しました。具体的には、様々な形で行われている「人身取引」の犠牲者、特に女性と子どもに助けの手をのべ、人間としての自由をとりもどす活動です。

タリタクムが設立される以前からカトリック教会や種々のNGOでも同じ活動がありました。今回、タリタクム国際会議では、世界各地の人身取引犠牲者の背後には人間を商品化する経済システムや男女の力の差異が生み出している経済的、社会的、文化的、宗教的な分野での課題に取り組むために、ネットワークを強化して働く必要性を再確認しました。タリタクムの精神はイエスの教え、生き方にありますが、諸宗教、無宗教などの区別を問わず、同じ心で人間の尊厳を認め、助け、幸せで自由な人生を過ごせるように働く多くのグループと連帯する行動計画を各大陸別につくり上げました。

今回の参加者は5大陸から48か国のタリタクム代表者86名と様々なサポーター、アニメーター及びタリタクムによって立ち直った犠牲者を含め、約100名ほどでした。日本からは運営委員長のSr. 塩谷とアジア・タリタクム委員のSr. Abbyが参加しました。9月21日から27日まで7日間、祈りと対話の雰囲気の中で各グループの活動紹介を行い、私たち自身に今、どういう呼びかけがあるかを対話と祈りの中で確認し、分かち合うことができました。最終日の前日にはフランシスコ教皇との特別謁見が設けられ、メッセージをいただき、一人ひとり教皇様にお目にかかることが出来、大変、励まされました。

タリタクム日本運営委員長 Sr. 塩谷 惇子



国際タリタクム総会参加者 48か国から100名ほどが参加しました。

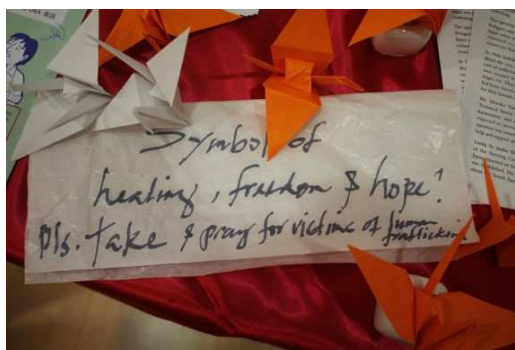


世界各国から集まった参加者

タリタクム国際コーディネーターの
Sr. ガブリエラ（中）と日本からの参加者 Sr. Abby（左）、
Sr. 塩谷（右）



教皇フランシスコから、励ましの言葉をかけていただきました



日本の小学生が作った祈りの折り鶴



タリタクム活動展示会



感謝のミサ



妊娠したベトナム人女性へFacebook 相談対応窓口が出来ました！

現在、日本各地のベトナム人司牧者のもとに、妊娠したベトナム人女性からの相談が多数寄せられています。技能実習生が妊娠したことにより中絶や強制帰国を迫られるケースや、留学生在が妊娠し、帰国して出産した後、再度来日して専門学校や日本語学校での勉強の継続できるかどうか、などの相談が後をたちません。しかし、問題解決のためのノウハウが共有されないまま、妊娠した女性が日本に残るために中絶したり、権利を放棄して帰国せざるを得ない場合がこれまで多くありました。このような問題に対応するために、JCaRM のベトナム対応チームで検討を重ね、今年8月にFacebook でのベトナム語相談対応窓口を開設しました。また同時に、働いている女性が妊娠した時の権利や受けられるサービスについて、リーフレットの配布やFacebook での情報発信を行っています。

2019年8月～10月の間に、7件の妊娠したベトナム人女性からの相談がありました。相談を寄せた女性は全員、中絶ではなく出産の選択をしています。多くはベトナムに帰国して出産を準備していますが、なかには専門学校での進路選択のための試験と出産時期が重なり、日本での出産を希望したベトナム人女性がいました。彼女は、最初に行った病院で出産支援はできないとの対応を受けて相談、JCaRM から、通訳同行スタッフを派遣して複数の病院と交渉し、結局、T都立病院に産前までの受け入れをしていただくことになりました。同じ専門学校生の夫や出産前後の手伝いのために呼び寄せた母親のサポートにより、10月に無事に女の子を出産し、その後も日本で専門学校の勉強を継続していく予定です。タリタクムでは、ベトナム対応チームの活動とも連携し、技能実習生が中絶や帰国を強要されそうになった時のシェルターの提供や一時緊急援助金の援助など、妊娠した女性たちへの支援を行う予定です。

タリタクム日本運営委員 山岸素子



タリタクム・インターナショナルネットワーキングニュース

2019年9月、国際タリタクム創立10周年を祝う国際会議がローマで開催されました。9月21日から27日まで、会場となったUSIG（国際総長会議）には48の国から86名の代表が集まり、10周年を祝いました。（詳細の報告はP4-P5）総会中に、東南アジアと東アジアのタリタクムメンバーが集まり話し合う機会も持ちました。

目的は、来年6月11日から16日にインドネシア、ジョグジャカルタの「シャンディカラ リトリートハウス」で開催される、東南アジア/東アジア会議について打ち合わせることです。その中で他のアジア地域、例えばインドやパキスタン、スリランカや中東、バングラデシュのタリタクムメンバーにも会議への参加を呼び掛けることが話し合われました。この会議はタリタクムインドネシアが主催します。

また、台湾とパキスタンのタリタクムがネットワークに加わったことを喜びのうちに報告します。私たちは今後、さらに多くのアジアの国にタリタクムが設立され、ネットワークとして人身取引撲滅のために行動していくよう働きかけていきます。

教皇フランシスコの訪日（11/23～26）に合わせて、“Nuns Healing Heart” 写真展が東京で開催されています。“Nuns Healing Heart” キャンペーンは、タリタクムの10周年記念の一環として、2019年5月に教皇フランシスコによってはじめられました。写真展はタリタクムの主要スポンサーであるガリレオ財団のプロジェクトで、世界の人身取引問題を撲滅するため開催されています。11月22日から12月20日まで、三菱一号館美術館歴史資料室と行幸通り地下ギャラリー（JR 東京駅直結）で開催されています。世界中で人身取引の被害者に寄り添い、一人ひとりの尊厳の回復を支えているシスターたちの働きを垣間見ることができる写真展です。

これからも世界中の人身取引の被害者に連帯し、祈りとご支援を続けてくださいますようお願いいたします。

タリタクム日本運営委員 Sr. アビー・アベリノ

人身取引問題国際ワークショップ（台湾）報告

7月25日-26日、台湾内政部移民署が主催する人身取引問題についての国際ワークショップが台北で開催されました。台湾副総統の陳建仁氏（Chen Chien-Jen）は開会のあいさつの中で、台湾政府が人身取引の予防に強くコミットしていることを示すとともに、今後国際コミュニティとの連携を強化していくと表明しました。2日間のワークショップには台湾の関係者と海外からの参加者合わせて300名が参加しました。



AOS（船員司牧）の会長であるブルーノ・シセロ神父が以前、台湾で司牧を担当していたつながりで、今回のワークショップには国際カリタス、カリタスアジア、AOS、タリタクム、COATNET、Mission to Seafarers から50人ほどが参加していました。2日間のイベントは、「人身取引防止のグローバルトレンド」「企業のCSRと漁業分野における搾取」「地域連携—人身取引問題」「反人身取引問題ケーススタディ」という4分野の講演と、パネルディスカッションで構成されていました。また、9人のスピーカーのうち2人は国際カリタス総裁のタグレ枢機卿と事務局長アロイスウス・ジョン氏で、コメンテーターである世界各地の人身取引問題の専門家8人とともに、移住労働者や漁業分野における搾取撲滅のための戦略的取り組み、強制的に犯罪に巻き込まれる事例についてその根本原因と、それぞれの経験と知見をシェアしました。中でも、移住と搾取に関する啓発活動について、多く話されました。

移民の多くは、行く先の国でどのような出会いや経験をするのかを知らずに母国を旅立っています。私たち参加者は皆で、人身取引撲滅のため、国内/国際的な連携を強化していくことを決意しました。



国際カリタス総裁 タグレ枢機卿

続いて7月27日には、カリタスアジア主催の反人身取引の会議が開催され、AOSやタリタクム、COATNET等カリタス以外の教会組織の代表も含めた、20数か国の50名ほどが参加しました。参加者は2日間のワークショップについて意見を交換し、それぞれの経験や直面している課題について話し合いました。

カリタスネパールからは予防の問題として、労働者の出国前ブリーフィングに取り組んでいるにも関わらず、韓国、日本など先行国におけるにおいて様々な問題が起こっている点が指摘されました。私たちは、人びとが搾取や人身取引に巻き込まれないようにするために何ができるのでしょうか？

さらに、COATNETグループからの報告を聞くとともに、POHT(人身取引に関する司牧指針)の実施についても話し合いました。

最後に、参加者間で今後行われる研修やセミナー、ワークショップについての情報を共有し、下記の催しへの参加が呼びかけられたことも報告しておきます。

- 2019年8月14日～16日にプノンペンで開催される、カリタスカンボジア主催第三回反人身取引全国フォーラム
- 2019年10月に台北で開催される、国際キリスト教海事協会(ICMA)世界会議

タリタクム日本運営委員 アビー・アベリノ

2020年の「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」に参加しましょう！

2月8日は、スーダン出身の聖ジュゼッピーナ・バキータの記念日です。この日を女子修道会の国際総長会議（USIG）は「世界反人身売買、祈りと黙想と行動の日（International Day of Prayer and Awareness against Human Trafficking）」としました。この日を記念して、教皇フランシスコも祈りと行動を呼びかけておられます。



2月8日は、「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」、そして聖ジュゼッピーナ・バキータの記念日です。

聖ジュゼッピーナ・バキータをご存知ですか？

スーダン出身の聖バキータは、7歳で誘拐され、奴隷として売られ、スーダンとイタリアで働いた後に自由になり、洗礼を受けて、カノッサ修道会修道女となり、2000年に列聖されました。



わたしたちのアクションをとりまとめて、力を結集することが必要です。「人身取引にともに反対しよう」のテーマを通して、それぞれができることに応じながら、この日の祈りと黙想と行動に参加することが呼びかけられています。

【参照】 国際タリタムウェブサイト
カノッサ修道会本部ウェブサイト
カノッサ修道会ウェブサイト
『使徒的勧告 喜びに喜べ 現代世界における聖性』32番



神は、人がみな、聖なる者、幸せな者となることを望んでおられます。父である神の愛に信頼することによって、わたしたちはあらゆる形態の束縛から解放され、人間の偉大な尊厳に気づき、本当の自分自身になります。教皇フランシスコは、このことが聖ジュゼッピーナ・バキータのうちにみられると強調されます。

祈りましょう。

聖ジュゼッピーナ・バキータ、あなたは、わずか7歳で誘拐されて奴隷として売られ、残酷な主人たちからひどい苦しみを受けました。やがて、あなたは、人間ではなく、神こそがすべての人間の、また、すべての人生の主人であるという深い真実を理解するようになりました。

聖ジュゼッピーナ・バキータ、父である神の愛を知らず、自分の尊厳を守ることのできないすべての人のとりなし手となってください。囚われの身となっている鎖が断ち切られるように、憐れみ深い神に取り次いでください。

神ご自身が、現代の人身取引といわれる鎖によって脅かされ、傷つき、不当な扱いをされているすべての人を解放してくださいように。不当な束縛から解放された人々に慰めがもたらされ、かれらの傷が癒され、イエスを希望と信頼をもって見つめることができるよう導いてください。

わたしたちが周囲に生じている出来事に対して無関心に陥らず、目を開き、尊厳と自由を奪われた多くの兄弟姉妹の悲惨さと傷を見ることができるよう。そして、助けをもとめる人々の叫びを聞くことができるように、わたしたちのために祈り、とりなしてください。

わたしたちの主、イエス・キリストによって、アーメン。

募金のお願い

「タリタム日本」では、人身取引被害者救済のためや、今後の活動のための募金をお願いしております。

郵便振替口座 00110-8-560351

加入者名 日本カトリック難民移住移動者委員会

通信欄に必ず「タリタム日本活動支援」の欄に☑を入れるか、
「タリタム日本」と明記してください。

発行物のお知らせ

『国籍を越えた神の国をめざして 改訂版』日本語版、6カ国語版、『技能実習制度Q&A』（A4判二つ折）

詳しくは日本カトリック難民移住移動者委員会ホームページ（<https://www.jcarm.com/>）をご覧ください。

（ご希望の方は難民移住移動者委員会事務局までお申し込みください）

日本カトリック難民移住移動者委員会

電話：03-5632-4441 FAX：03-5632-7920 E-mail：jcarm@cbcj.catholic.jp